

ひがりの都

2014年
1月発行



写真提供：古林信幸氏



新年のご挨拶

副院長 加藤 順一

皆さま、あけましておめでとうございます。西播磨病院も平成18年の開院以来、今年で8年目を迎えることとなります。ひとの成長に例えるなら、ちょうど学童期と言いますか成長期に入り、よちよち歩きから社会にしっかりと足をつけて前に歩んで行く時期でもあります。リハビリ医療に特化した県立病院として西播磨や中播磨を中

心に多くの患者さまにご利用いただいております。現在では播磨科学公園都市にあるリハビリ専門病院として県民の皆さまに定着しつつあります。

西播磨病院では、先進的で安全な医療の提供をめざし、地域とともに歩み成長するという運営理念のもと、職員一同さらに邁進する所存です。今後、日本では超高齢化社会を迎えるにあたり、医療と介護サービスの提供内容も時代とともに変化することが予想されます。脳卒中や整形外科の術後などの回復期リハビリ治療やパーキンソン病・神経筋疾患など神経系の病気のリハビリ医療は勿論のこと、脊髄障害による四肢まひなど、他の病院では取り組みにくい疾患のリハビリにも力を注いでいく予定です。また、超高齢化社会を迎えすでに社会問題となっている認知症患者およびそのご家族へのサポート体制として、認知症疾患医療センターにおきましては、行政機関・近隣の医療機関および在宅介護領域との協力のもと、リハビリ医療と介護サポート支援の相談窓口として西播磨における認知症の診療の中核をより一層担う所存です。

また、当院を退院後に介護を要し在宅生活されている方々に対して、介護保険による通所リハビリ事業を実施していますが、身体および生活機能を維持し、安心して住みなれた地域で生活いただけるよう一層努力して参ります。

西播磨病院の廊下にあります展示ライブラリーでは、月毎に患者さまや家族の会の皆様による作品を展示して頂いており、病院職員をはじめ病院利用者の皆さまにもお楽しみ頂いています。また、年2回の病院ロビーコンサートや当センターで秋に実施される「ふれあいリハフェスタ」やクリスマス会など数々の行事も計画していますので、いろいろな機会を通して病院を訪れて頂きたいと思ひます。

今年も、西播磨病院への県民の皆さまのご理解とご支援をお願いいたしますとともに、職員一同より良いリハビリ医療に貢献できるよう研鑽する所存です。病院利用者の皆さまならびにご家族さまにとりまして今年もより良い年でありますよう祈念いたします。



クリスマス会

日時：12月11日(水) 16:00～17:00
場所：研修交流センター 交流ホール

患者様と職員との交流と、病院生活を有意義に過ごしていただくことを目的に、患者様とその家族による心温まる歌や楽器演奏を披露していただきました。

院長サンタも登場し、会場はひと足早くクリスマスモードで、楽しく笑いに満ちたひとときとなりました。



泌尿器科からの紹介 Part2

泌尿器科
柳内 章宏



今回は、代表的な排尿障害について説明いたします。

1. 脳血管障害(脳卒中)に伴う排尿障害

脳卒中患者さんは、急性期には膀胱の収縮が悪いため、尿閉(尿が出せなくなってしまう)となるため尿道カテーテルを留置されていることが多いのですが、慢性期になると急性期とは逆に、尿意もなく、またはあってもトイレに行ったり尿器をあてたりする暇もなく漏れることが多くなります(切迫性尿失禁)。これは、尿がたまると膀胱からの刺激が脊髄がすぐ反応し、脳の命令を無視して収縮を始め(排尿筋過活動)、また尿道の括約筋も緩めてしまうからです。また病変によって、膀胱の収縮力も低下するタイプもあります。

2. 脊髄疾患に伴う排尿障害

脊髄損傷患者さんの排尿機能は、損傷レベルより下位の脊髄まで障害が及ぶためさまざまなパターンを呈します。不適切な排尿管理を行うと、膀胱の伸縮力が低下し、尿の腎臓への逆流、腎機能障害につながります。当科では、ウロダイナミクス検査と膀胱造影、上部尿路造影を行い、低圧で蓄尿でき、可能な限り尿失禁を回避し、かつ排出時には高圧とならず残尿も少ない排尿管理法を立案します。膀胱の収縮力が残っている方は自然排尿(くすりを併用する場合も)を、収縮がない方には、自己導尿やカテーテル留置の適応となります。長期の尿道カテーテル留置はトラブルの原因となりますので、膀胱ろう(下腹部から膀胱に直接カテーテルを入れる方法、尿道のトラブルは回避できる)の造設を推奨します。

3. その他の疾患による排尿障害

パーキンソン病の方には、前述の排尿筋過活動が45～93%と高率にみられ、頻尿、尿失禁が主な症状です。しかし膀胱の収縮不足も40～66%にみられ、運動の障害と相関があるようです。

認知症の方の50%以上に尿失禁が見られるといわれており、特にレヴィ小体型認知症ではほとんどの方に排尿障害が認められます。

また、神経の病気ではありませんが、中高年男性には前立腺肥大症によって、排尿困難、頻尿、尿失禁など様々な症状を引き起こします。

4. 治療

頻尿・尿失禁のお薬としては、膀胱の活動を少し抑えて排尿まで我慢できるようにする薬(抗コリン薬、アドレナリン受容体作動薬)を主に使用しますが、膀胱収縮力が不十分だと残尿が増えますので頻尿が悪化します。この場合は、膀胱の収縮を高める薬(コリン作動薬)や、尿道の抵抗を減らす薬(α 受容体遮断薬)を使用します。またリハビリによって移動や移乗ならびに排尿動作が早く確実にできれば失禁は減らせますし、行動療法(膀胱訓練、骨盤底筋体操)も有効です。

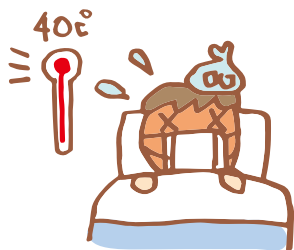
膀胱の収縮力不足の方には、コリン作動薬、 α 受容体遮断薬を主に使用しますが、それだけでは難しい場合、導尿、カテーテル留置しなければならない場合もあります。



インフルエンザ、ノロ、そして人類

リハビリテーション科
石川 晴邦

今年も季節は冬となりました。インフルエンザやノロウイルスの感染やその流行、集団発生が起こりやすい季節です。インフルエンザはご存知の通り、約3日間の潜伏期間を経て高熱や筋肉痛、喉の痛みが出て来ます。抗ウイルス薬で比較的早期に症状が治まる場合もありますが、その場合も症状が出てから約7日間は体内に残っているウイルスにより周囲を感染させる可能性があります。



るので、マスクの着用と自宅での待機が望めます。高齢者ではインフルエンザに続いて肺炎球菌などの細菌の二重感染が起こり重篤な肺炎に至ることもあるので注意が必要です。

ノロウイルス感染は、食中毒(とくに牡蠣などの二枚貝)によるものと共に、ノロウイルス感染者の嘔吐物・糞便を介した経口感染が主な原因です。感染者本人の手や嘔吐物、便を処理した人の手から他の人の手に渡って、最終的に口に取り込まれ感染します。嘔吐物や下痢の飛沫物が床や衣服などに残っていた場合、乾燥によりウイルスが空気中にホコリと共に舞い上がり、それを吸い込んでしまうことでも感染が起こります。感染すると急性胃腸炎による強い吐き気や嘔吐、激しい下痢の症状がでます。便と共にウイルスは体内から排出されるので通常は1~2日でよくなりますが、頻回の嘔吐と下痢により脱水状態を引き起こし、子供や高齢者は重症化することもあるので注意が必要です。ウイルスであるために抗生剤は効果なく、治療は水分や電解質の補給などの対症療法となります。



インフルエンザ、ノロウイルス感染、できれば罹りたくないものですが、人間が社会において生きていく限り完全に逃れるのはやはり難しいのかもしれません。古代から感染症の発症、流行は、人類の新たな環境との接触の結果起こる事が常でした。新展地への「開拓者」が、入り込んだ土地で免疫のない病原体に洗礼を受ける事もあれば、逆に「開拓者」が現地の人々に望まぬ土産(その土地においての未接触の病原体)渡し、大惨事を与えたこともありました。人間の移動は病原体の移動、拡散でもあります。紀元1世紀あたりから形成されたシルクロードはヨーロッパにシルクをもたらす「絹の道」でもありましたが、アジアに起源を持つペストをヨーロッパにもたらした「黒死病の伝導の道」でもありました。

インフルエンザもノロウイルスも毎年のように流行や集団発生が起こっています。これらウイルスをなんとか撲滅できないのか、という思いも出てきますが、大きな

視点で見ると、もしかしたらインフルエンザもノロウイルスも私たちが地球上で生きていく上で必要な存在なのかもしれません。人類の歴史を振り返ると、他民族にとっては新規のウイルス感染症を自分たちが「持っている」ため、侵略を避けられたという、ウイルスによる防御機構が働いた事実もあったようです。トム・クルーズ主演の映画『宇宙戦争』でもエイリアンの侵略から人類を守るのは病原体です。自然界は微妙なバランス、相互関係の中で成り立っています。もし人間の手でこれらウイルスを排除、撲滅してしまったら、その微生物の生態系的空き地に、より手強いウイルスが居座ってしまうかもしれないし、思ってもみなかったような我々の身体、生活を脅かす事象が起こるかもしれません。そう考えると、力でねじ伏せる思考ではなく、いかに共生していくかという視点もこれからの時代において大事なのかもしれません。

一見自分たちにとって負をもたらしているように見える事象も、実は測り得ない理由があるのかもしれない。インフルエンザウイルス、ノロウイルスは、もしかしたら私たちをエイリアンから守ってくれているのかも(なんてね)。相手も活かし、自分も満足している、そんな状況、環境になれば理想だ。かと言って馴れ合いの状態となり、全くの静的平衡状態になってもいけない。関係性の中に適切な緊張感とダイナミズムがなければ、そこには生成発展、循環のエネルギーは生まれない。とは言うものの、現実問題インフルエンザもノロも罹ると本当に体はしんどく、かなり辛い。体が弱っているお年寄りや小さな子供にはとっては危険だ。人類の歴史や世界の成り立ちについて思いを馳せるのもそこそこに、やっぱり手洗いはしっかりしなくちゃと思う私なのであります。



新年あけましておめでとうございます
年始は山陰「はまさか」で松葉ガニと温泉で決まり!



カニおすすめコース

平日1泊2食付き 1室2名様利用

大人お一人様 (60歳以上の方)

12,150円(税込)

カニシーズンは大変混みますので、
お早めにご予約くださいませ!



※かにコースは写真イメージです。詳細は当荘にお問い合わせ下さい!
車椅子の方や杖歩行の方に優しいバリアフリー対応の宿です



浜坂温泉保養荘 TEL:0796-82-3645

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775 <http://hamasaka-ni.com>



総合相談・地域連携室 のご案内

病院玄関を入ってすぐ右側、受付窓口の向かい側に総合相談・地域連携室があります。

この部署には室長の医師をはじめ、医療ソーシャルワーカー、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が配置されており、様々な相談を受けて、専門的な立場からの助言や関係機関との連絡調整を行っています。「介護保険で何が利用できるの?」「身体障害者手帳のメリットは?」「住宅改修の助成を受けるには?」「在宅で使えるサービスは?」etc…当院を利用されている皆さんでこのような様々な疑問や不安を感じられたことはありませんか。そんな時は総合相談・地域連携室をご利用下さい。よい解決方法が見つかるようお手伝いをさせていただきます。

総合相談・地域連携室をご利用になる際は、直接お越し

になる方法とお電話でのご相談という2つの方法があります。直接お越しになられる方法については、ご予約がなければご相談をお受けできないということはありませんが、担当者が不在のケースも考えられるため、特に入院中のご本人・ご家族様には事前に時間等ご連絡をいただけますとスムーズにご相談をお受けできます。ご利用時間も決めさせていただいておりますが、緊急な場合には時間外でも対応できるケースがあります。まずはお問合せいただけますようお願いいたします。

何かお困りのことがありましたら、お気軽にご相談下さい。プライバシーは厳守いたします。少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。



☆ご利用時間

月～金

9:00～12:00

13:00～17:00

☆お問合せ電話番号

☎ (0791) 58-1050

(内線110)

🍴 お店紹介 🍴

～ すみれ亭 ～

お店紹介5回目となる今回は、兵庫県立先端科学技術センター1階にある“すみれ亭”です。

店内は落ち着いた雰囲気です。喫煙・禁煙席に分かれており、和食中心に一品、定食をしっかりと食べられるお店です。朝は宿泊者のみの提供なのですが、昼夜は佐用や上郡から家族連れも多く訪れ、昼は季節ごとにランチメニューが変わり好評です。お子様セットなどもありますし、食後には150円でソフトドリンクも追加でき、ついつい長居してしまいます! 食事だけでなく、ソフトクリームや本日のケーキセットなどあり、用途に応じてさまざまに使える便利なお店です。宴会会場として使うこともでき、メニューやお酒は予算に応じて相談できるそうです。お店だけでなく、2階のホールも使うこともあるそうなので、大人数でも参加できそうです! レストランの横には、物産店もあり、お菓子や洋服、地元の新鮮な野菜も気軽に買うことができます。



今回、私たちはすみれ御膳、煮込みハンバーグ定食、海老フライ定食などを頼みましたが、刺身やデザートまでついたボリューム満点のメニューでし



た。とても上品で、たくさん食べてもお腹にもたれない、いつ食べてもやさしい味でした!

今回はご飯を食べに行きましたが、次回はコーヒーを飲みながらゆっくり本日のケーキを楽しみにいこうかな、と思います。皆さんも是非訪れてみてください。

【取材者】

言語聴覚士 中崎

和田

三島

音楽療法士 細江



赤穂郡上郡町光都3丁目1-1
兵庫県立先端科学技術支援センター1階

☎ 0791-58-0600

■営業時間

11:00～21:00

(夜:ラストオーダー20:00)

※ランチタイム 11:00～14:00

■定休日

年末年始